

<目次>

●来年10月から始まる「インボイス」制度とは

■「子どもの未来をひらく川崎集会」2023年2月19日開催

▲ お知らせコーナー

☆8/27ゆめシネマ「スズさん」戦中戦後を生きた大田区の主婦の暮らし

☆8/28☆ゆきとどいた教育をすすめる川崎市民の集い

☆9/2「河 あの裏切りが重く」上映会（市民ミュージアム修復作品・本日締切り）

☆9/4西加瀬プロジェクトを考える会

★ 編集後記

●来年10月から始まる「インボイス」制度とは

国税庁はやっきになって周知をしようとしています。Google で「インボイス」と検索をかけてみると、その後続く言葉は「わかりやすく」とか「やばい」といった言葉が続きます。

そもそも理解しにくい制度のため、国民の理解が進んでいないという現状と、理解してみると制度が及ぼす被害の「ヤバさ」に驚く、ということが見てとれます。

年間売り上げ1千万円を超える事業者は、毎年消費税の確定申告をし、国及び地方に消費税を納めています。

現在の申告の計算方法は、＜売上で預かった消費税－仕入れ等で支払った消費税＝納付する消費税＞といった引き算です。

例えば、建設業者が5000万円の工事を請負い、外注費や材料費など4000万円の仕入れ等がかかり1000万円が手もとに残った場合を考えてみます。

事業者は5000万円×10%の500万円の消費税を買い手からもらいますが、それをそのまま国等に納める訳ではありません。

すでに仕入れで4000万円×10%の消費税を支払っているため、それを引き算し、500万円－400万円＝100万円の消費税を納税することとなります。

インボイスが始まると、請求書や領収書、レシート等に、インボイス登録番号を記載する義務を負います。

そして、消費税の確定申告をする際には、領収証等にインボイス登録番号が付されている

場合にのみ税額控除が出来、登録番号がない領収証等は仕入れ税額控除が出来ません。従って、仕入れ先が全て非課税業者で、インボイス登録をしていない場合、500万円－0＝500万円と納税額が5倍になってしまいます。つまり、仕入れで支払った消費税を今度は税務署に支払う2重払いです。一方、売り手がインボイス登録業者になるには消費税課税業者にならなくてはなりません。

そのため、一人親方などの免税業者は、課税業者を選択せざるを得ず、年間で、ひと月分の生活費がすっ飛ばすくらいの打撃を受けることとなります。更に、買い手である工務店などにとっても、相手が免税業者なのか課税業者なのかが分からないと見積もりも書けない、という状況になります。先ほどの例でいえば、余計に支払う400万円は、販売価格に上乗せするしかありません。回り回って消費者の負担増につながります。

「インボイス」制度は、免税制度を作った趣旨をないがしろにし、売り手にも買い手にも大きな負担を負わせる悪質な制度です。

コロナによる仕事不足に加えて物価高など、暮らしを脅かす状況が広がっている中で、追い打ちをかけるようなインボイス制度の実施は許されません。

## ■「子どもの未来をひらく川崎集会」2023年2月19日開催

子育て・教育をテーマに1991年から市民が主催して毎年開催してきた集会は、コロナ感染拡大のために、2年間休会としていました。

しかし、コロナ禍の中での子どもたち、教職員、保護者、子育てサークルなどが、どんな状態に置かれ、どんな困難を抱え、そして、それらをどうやって乗り越えていこうとしているか、今だからこそ、話し合いたいという声が強まりました。

それを受けて、7月24日に、実行委員会が開かれ、コロナ禍のなかでの子どもたちと保護者、先生たちの困難を話しあう第31回「子どもの未来をひらく川崎集会」を3年ぶりに、法政二中高で開催することになりました。

午前中は、記念講演として、世田谷区立桜丘中学校元校長、西郷孝彦さんに決まりました。午後はテーマごとに分科会を開きます。

実行委員会に参加した母親は、コロナ禍の中で、学校での楽しい行事やプール学習などの機会が奪われ、給食も「黙食」が当たり前になり、子どもが、ただ我慢することをじっと受け入れていることが不安だと語りました。

この数年間に、市内の不登校生徒の数は増え続けています。このままの状況が続けば、子どもたちの健やかな発達に多くの困難が生じることは明らか

です。

主催者は、当日だけの「集会」ではなく、これから開催していく実行委員会の中で、また、分科会の打ち合わせの中で、交流を深め、名称どおりの「子どもの未来をひらく」幅広い運動として成功させたい、そのためにも、どなたでも実行委員として参加してほしいと呼びかけています。

今後の予定は、8月26日（金）18時半から「かわさきゆめホール」で事務局会議、9月19日（月）10時から中原市民館会議室で第2回実行委員会を開催します。

子どものこと、学校のことを話しあいたい方は、ぜひ、事務局に連絡をしてください。

連絡先は、事務局長：船津了

TEL・FAX 044-434-4290

メール fw547437@qa2.so-net.ne.jp

### ☆ゆめシネマ「スズさん」戦中戦後を生きた大田区の主婦のくらし

8/27 ①9時 ②11時 ③13時 ④17時 ⑤19時

かわさきゆめホール

③の後、監督によるアフタートークあり。

一般：1,000円 障がい者：500円 学生以下：200円

044-433-3003

yy.nannbusen@gmail.com

### ☆ゆきとどいた教育をすすめる川崎市民の集い

2020年度 教育署名スタート集会

8月28日（日）10時～12時

かわさきゆめホール

連絡先 川崎市教職員連絡会

TEL 044-433-1413

### ☆仮称「西加瀬プロジェクト」を考える会

9/4 13時半より

会場：川崎市平和館屋内広場

メールアドレス souko.iranai@gmail.com

公式ホームページ <http://soukoiranai.html.xdomain.jp/>

LINE アカウント <https://lin.ee/IJUSBto>

## ★ 編集後記

「じもと応援券 12 億円分が売れ残り」とタウンニュースが報じました。  
川崎市のコロナ対策独自施策としては、これ一本にしがみつく福田市政です。  
日々のやりくりで苦勞している庶民にとっては、2000 円安くなるからと事前に 1 万円を出すことはきつい。  
しかもスマホ決済となると普及率 43.6 %と言いますから半数以上の市民は対象外です。  
国の指針を口実に、国の制度を超える市民への還元にそっぽを向け続ける福田市長。  
民商協議会では、売り上げの減少している事業者への手厚い援助を求めています、全く  
応じる気はありません。  
きめ細かくコロナで困窮した市民を救済するなど思いが及ばないのかもしれませんが。  
冷たい福田市政にため息が出ます。  
タウンニュース (WEB) ↓↓  
<https://www.townnews.co.jp/0204/2022/08/19/638209.html>